

令和4年度 奈良県スポーツ推進審議会定例会 議事録 第1回

- 1 開催日時 令和4年8月30日(火) 14:00~16:00
- 2 開催場所 奈良県コンベンションセンター 205会議室
- 3 出席委員 12名(臨席7名、ウェブ5名)
臨席) 佐久間会長、朝原委員、田尻委員、田中委員、蝶間林委員、
福西委員、松下委員
ウェブ) 川手委員、千葉委員、中西委員、星野委員、松永委員
(名簿記載順)
- 4 欠席委員 根木副会長、伊藤委員、並河委員

[西川課長補佐]

大変お待たせいたしました。ただいまから令和4年度奈良県スポーツ推進審議会第1回定例会を開催いたします。

本会議の進行は、奈良県スポーツ振興課の西川が務めます。よろしくお願いいたします。

本日は、会場にお越しいただいた委員の方々のほか、ウェブでご参加いただく委員の方々がいらっしゃいます。ご出席いただいております委員の皆様のご紹介は、後ほどさせていただきます。

それでは、開会に際しまして、奈良県文化・教育・くらし創造部長の舟木より、一言ご挨拶申し上げます。

[舟木部長]

委員の皆様には、お忙しい中ご臨席賜りましてありがとうございます。また、ウェブでご参加いただいている委員の皆様、お忙しい中ご参加いただき誠にありがとうございます。

平素より奈良県のスポーツ振興及び推進にお力添えをいただき、御礼を申し上げます。

いよいよ令和13年度に開催を予定しております、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会まで、10年を切りました。先週には準備委員会の総会を開催し、諸事項についてご審議を賜ったところです。今後、準備も本格化して参ります。本日はその計画についても、いろいろなご意見を賜りたいと思います。

また、コロナがいまだに収束の兆しを見せませんが、ここ2年間はやはりいろいろなイベントが中止に追い込まれております。中でも、すべての大会やイベントを中止にするのではなく、感染対策を万全に講じれば、かたちを変えて行えるのではないかとということで、奈良県ではこの冬、奈良マラソンの規模を3年ぶりに1万人の規模にまで回復させて実施したいと考えております。

また、小さなお子様方を対象としたスポーツの振興にも取り組んでおり、6月には卓球の

石川佳純選手にお越しいただきまして、本県の子どもたちに卓球教室を開催していただきました。

本県のスポーツの振興、推進につきまして、本日も様々なご意見を頂戴できることを期待しておりますので、2時間という限られた時間の中ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

〔西川課長補佐〕

会議資料、次第、審議会条例・規則について説明

委員の紹介、議事録の公開等について説明

ウェブ会議場でのマイク使用のお願い

議事進行を佐久間会長に依頼

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

それでは議事の進行に移りたいと思います。よろしくお願いいたします。

議事の進行に先立ちまして、本日の議事録署名人を、蝶間林委員と福西委員にお願いしたいと思います。

本日の審議会につきましては、委員の皆様にごできるだけ多くのご意見を頂戴したいと思います。従来のおり関連なご意見をお願いいたします。

本日の大きな議題はスポーツ推進計画の策定についてですが、その前に事務局より、報告資料1から3に基づいて説明をお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

〔河内課長補佐〕

では報告資料1—1について、報告させていただきます。

先ほど舟木部長の挨拶の中にもございましたが、昨年11月に立ち上げました奈良県準備委員会の第2回総会を、8月22日に奈良県コンベンションセンターで開催させていただきました。

冒頭の知事の挨拶では、大会の開催そのものも大事ではありますが、大会その後続く、奈良県のスポーツの振興のきっかけにしたいということ、また、スポーツ施設の整備におきましては、持続力のあるスポーツ施設ができるような配置や規模を考えていくことなど、今後の県の施策に対する考え方が述べられました。

総会での報告事項につきましては、資料の右側記載の(1)から(6)の内容でございます。

(2)をご覧くださいますと、競技会場地市町村の選定とございますが、今年10月より市町村と協議団体の意向を聴取いたしまして、会場の選定を行って参ります。

令和13年度奈良大会での実施競技につきましては、水泳、陸上、サッカーなど、デモン

ストレーション競技を除く 47 競技を実施することが決まりましたが、令和 7 年度に中央競技団体の視察がございますので、それまでに競技会場が決定できるよう進めて参ります。資料 1-1 につきましては以上です。

〔湯浅課長補佐〕

続きまして、スポーツ人材育成の取り組みについてご説明させていただきます。

人材育成につきましては、9 年後に国体の開催が予定されていること、また、県民の皆様
の運動、スポーツへの意識向上のためにも取り組むべき重要な課題の一つとして認識して
おり、本審議会においても、同じ趣旨のご意見をいただいているところでございます。

こういったことを踏まえまして、今年度からスポーツ振興課に、新たにスポーツ人材育成
係を創設し、検討を始めたところです。

報告資料 1-2 をご覧ください。本県の現状及び課題についてですが、(1) から (6) ま
での課題等があると考えており、それぞれの課題に対しまして、求められるスポーツ人材を、
ページ下側にまとめております。

次のページをご覧ください。求められるスポーツ人材を育成するため、まず三つのプログ
ラムに取り組んで参りたいと考えております。一つ目に、国体に向けた競技力強化プログラ
ム。二つ目に、幼児向け運動スポーツプログラム。三つ目に、無関心層にアプローチする運
動開始プログラムです。

次のページをご覧ください。ライフスタイル、ライフステージ別に整理した表でございま
す。カテゴリー別に、求められる人材も様々ですので、このようなことも踏まえながら、人
材育成の検討を進めて参ります。

報告資料 1-2 については以上でございます。

〔西川課長補佐〕

報告資料 1-3 についてご説明申し上げます。

奈良県では、令和 4 年度中に、スポーツ振興に係る条例制定を予定しております。これま
で審議会でご頂いたご意見や、有識者の方々との勉強会の内容を踏まえ、現在条例の内容を練
っております。今後、条例制定において、なぜスポーツをすることが大事なのか。なぜ県は
スポーツ振興に取り組むのかなど、スポーツ振興に関する基本理念を明らかにし、県が実施
する施策を体系化します。

誰でもいつでもどこでもスポーツに親しめる環境を整え、県民のスポーツ、運動のきっか
けづくりに取り組んで参ります。

報告資料 1-1 から 1-3 の説明は以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

ただいまの報告資料について、委員の方から何かご質問等ございますでしょうか。

では私の方から、人材の育成について気になることがあります。国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けての人材育成は、本当に時間を要します。施設のなものでしたら、2、3年でできるかと思います。人材育成については、あと残り9年、それでも短いと思いますので、至急取りかかっていたいただきたいと思います。

また具体的な内容につきましては、この後の審議のところでいろいろご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ほかに何か報告資料につきまして、これはどうなっているのかなど、ご意見等ございませんでしょうか。

それでは質問がないようですので、続きまして、本日の議題に移らせていただきます。それではお手元に配付しております資料4、奈良県スポーツ推進計画素案について、事務局より説明していただきます。よろしくお願いいたします。

〔木村次長〕

それではお手元に配布しております資料4をご覧くださいと思います。まず1ページ目から説明させていただきます。

現在の奈良県スポーツ推進計画ですが、平成25年度に10年間の計画として策定いたしまして、中間年の平成29年度に見直しを行っております。

これまで審議会でも報告させていただいておりますが、委員の皆様方からもご意見をお聞きしながら、この計画に基づきまして、これまで様々な取り組みを県として行って参りました。

この現在の奈良県スポーツ推進計画は今年度までの計画となっており、新たに次期計画を策定する必要があります。策定にあたりましては、令和13年度の本県での国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて必要となる施設整備、あるいは大会を機に、あらためて多くの県民の方々に運動、スポーツに関心を持っていただき、生涯を通じてスポーツを楽しむ、それが健康にも繋がる、地域の活性化にも繋がる。これらの取り組みを進めていく必要があると考えております。

さらには、少子高齢化やデジタル化の推進、コロナの感染拡大など、社会の情勢も変化しておりますので、そういったものにも対応していく必要があると考えております。

このような現状というのも十分認識いたしまして、本県が新たに令和5年度から令和9年度までの5年間に取り組んでいく、奈良県スポーツ推進計画を策定したいと考えております。

真ん中に、奈良県スポーツ振興ビジョンと書いてありますが、それでは奈良県ではスポーツを通じて何をを目指すのかという、中段に記載の通り、「誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり」に取り組む、これが本県の一番目指したいと考えているところです。

そのために、スポーツの持つ価値、効果というものを最大限に生かし、体を動かす。人を育てる。活動の場を作る。これを三本柱ととらえて進めていくことが必要と考えております。また右側に基本理念と書いてありますが、取り組みにあたっての理念でございます。前回の審議会でも、委員の皆様からたくさんのご意見をいただきました。それらを整理し直しております。

そして本日、委員の皆様にご意見をお願いしたいところの、まず一点目ですが、1ページ目の右下に参考指標を記載しております。今後の本県の取り組み効果を、何をもちて測るかということが大変重要になって参ります。ここに記載の1日合計30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施している人の割合、あるいは1年間にスポーツをしない人の割合と書いてありますが、どういう指標がいいのか。わかりやすく、そして取りやすい指標にしたいと思っております。ここについて、まずご意見をいただければと思います。

次に2ページ目でございます。先ほどお話ししましたこの三本柱ですが、それぞれの柱ごとに目標と施策を記載しております。例えば一つ目の体を動かすということにつきましては、県民一人一人が生涯にわたり、その関心、適性等に応じて自主的かつ主体的にスポーツに親しみ、心身の健康維持向上を図りますということを目指し、主な施策としまして、一つ目、県民参加型スポーツの推進。二つ目、子どものスポーツの推進。三つ目、生涯スポーツの推進。四つ目、障害者スポーツの推進と書いております。同様に、二つ目の柱、人を育てる。そして三つ目の柱、活動の場を作る、ということについても、目標と施策を書いております。

ご意見をいただきたい二点目が、この中の施策のところでございます。こういう取り組みをするにあたって、具体的にどんなことを奈良県として取り組んでいくべきか。ご意見をいただきたいと思っております。

資料の3ページ目から6ページ目につきましては、2ページ目に記載の施策について、細かく記載しております。説明は省略させていただきます。

そして、参考資料の方をご覧ください。参考資料1は、現在の奈良県の主なスポーツ施設の現状となっております。これらを使って、令和13年の国体に向けて準備をしていきたいと思っております。

参考資料2は、現在のスポーツ推進計画における指標の推移をまとめています。例えば1ページ目は、左上に、1日30分以上の運動スポーツを週2回を実施する人の割合を記載しています。平成27年あたりから順調に右肩上がりになっておりましたが、この2、3年は、コロナの影響もあって少し数字が下がったようになっています。

また、右側に、年齢別の運動習慣者と書いてありますが、こちらも審議会の中で過去から課題に挙がっていますように、30代40代の子育て世代、働き盛り世代は、依然として低い状況になっております。

2ページにつきましても、右側が、交流大会参加数となっております。コロナの影響で、令和2年度3年度は極端に少ない数字になりました。

3、4ページについても同じような状況になっております。

5ページには、子どもの体力数値を書いておりますが、全国的に見ましても、また奈良県の状況でもそうですが、平成30年度あたりから少し下がってきている状況です。

最後、9ページをお願いします。コロナの影響で、直近のスポーツをする頻度や機会が減ったか、というアンケートですが、やはり半数近い方々が、減ったという回答をされています。これらについても、今後どのように改善していくのかということも、大きな課題であると思っております。

参考資料3については、現在の主なスポーツ推進計画に対する市町村の取り組み状況をまとめております。1ページ目の下段、スポーツ行政を推進する上で、推進しづらい点や悩み等というところですが、やはり市町村も人材不足であると。そして国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、あるいは県民の方々に運動・スポーツをする習慣を付けてもらうという意味でも、施設が足りなかったり、老朽化が進んでいたりという現状だと、各市町村もとらえております。

これらの奈良県の現状等も踏まえまして、今後新しいスポーツ推進計画を策定する上で、委員の皆様方のご意見をいただきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

私の方からは以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございます。

ただいま事務局の方からご説明いただきましたが、具体的な内容につきましては、参考資料が考える助けになるのではないかと思います。まず、資料4の2ページ目では、スポーツ振興施策の柱ごとに分類されています。その部分と、次期計画の指標の議題に分けて、ご意見を頂戴したいと思っております。

まず、ポイントの一つ目として、2ページ目の施策の展開のところに関しまして、いろいろご意見を頂戴したいと思っております。

柱の1から3があり、例えば、柱の1は健康増進のためのスポーツの推進。ここに目標と、施策について挙げてあります。その詳細につきましては次のページに説明があり、また参考資料もご覧いただきたいと思っております。

まず柱1の施策、県民参加型スポーツの推進のところ、やはり総合型地域スポーツクラブについて出ておりますが、これに関して、福西委員、いかがでしょうか。現状の問題もいろいろあると思っております。

〔福西委員〕

福西です。よろしくお願ひします。

一つ一つについては、現状というのはすぐにお答えできないのですが、ざっくりと総合

型地域スポーツクラブの現状で言いますと、一時期結構ずっと右肩上がり、それなりに活動ができてきた状況で、その中で淘汰されながら、規模も含めていろんな形で進んではきたかなと思いますが、今はもう一度、後押しが必要な現状ではないかと思います。

特に人材のところですね。最初は皆さん指導者しかいない中で、それなりに苦勞されて、マネジメントも行っているところが増えてはきていますが、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が近づいてきて、総合型地域スポーツクラブと学校のクラブ活動で密接な関係も出てくると思いますので、やはりもう一度総合型地域スポーツクラブは、自分たちも変わっていかないといけないなと思いますし、やはり人の問題になってくるので、ある程度行政のサポートなども要るのかなと。もっと関係性を深めて、一緒になって協働するという形でもいいかなと思うんですけども、そういう時期に来ているのかなと思います。

子どもの数が基本的に減っているのと、もともとの母体がそんなに大きな馬力のあるクラブばかりではありませんので、逆に単一種目だけやっているところの方が、馬力のあるクラブという雰囲気を保っているところもありますので、十分奈良の現状を踏まえて、もう一度後押しが要る状況であると思います。

あともう一点、子育て世代や幼児期のスポーツというところで、例えば女性を絡めたりといったことが、なかなか総合型地域スポーツクラブとしてとらえにくくて、活動が実際に定着はしていない。皆さんチャレンジをしておられるんですが、そこに関してはうまく運べていない、イベントも短い単位で終わってしまっています。このあたりなどは特にいろんな方が行動してやっけていかないと、なかなか厳しいというのが現状だと思います。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。現状の問題点等も指摘していただきました。

参考資料2にデータがありますが、令和4年度の数値は目標値ということで違う色で示してあります。青色が現状値、実際の数字です。この参考資料2の2ページ目のデータから、何か読み取れること、あるいは今後の展開を工夫した方がいいのではないかということについて、何かございますか。

中西委員、どうぞ。

〔中西委員〕

先ほどご説明のありました資料4の2ページ目、柱1の施策中の、2子どものスポーツの推進について、(1)幼児期のスポーツ（運動・遊び）の推進というフレーズがありますが、幼児期というのは年齢的には3歳からの6歳の小学校就学前の子どもを指すと文部科学省の資料にも出ております。これを踏まえますと、スポーツという言葉ではなく、この時期は「遊び」を優先することが必要ではないかと感じておりました、運動はもちろん必要なんです、(遊び・運動)の推進というように、遊びを優先させる書き方に変えていただきたい

なと思います。

それから、柱2ですが、人材の育成、コーディネート、マネジメント、指導者の観点から参りますと、子どもが楽しく体を動かすことができるように促す、そういう人材が必要ではないかと考えております。例えばプレイリーダーのような人材の育成が必要ではないかと思っております。

三つ目は、柱3の施策中の1施設の整備というところですが、幼児期の子どもが遊べる環境づくりというのが大変重要ですので、これも必要かと思っております。

この三つを考えていただきたいと感じております。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

それでは福西委員、先ほどの参考資料のデータについて何かございますか。

〔福西委員〕

県内総合型地域スポーツクラブの会員数や、法人格を有する総合型地域スポーツクラブの割合などについてですが、前年度との比較などを現場の視点で見えていくと、クラブの数が増えていってもしようがないかなというのが、正直思うところです。

総合型地域スポーツクラブはいろんなものすべてをまとめてやっていかないといけないので、自立している総合型地域スポーツクラブでないと、今後なかなかやっていけないというのがあります。マネジメントができる人間を育てようということで、いろいろ動いていきましたが、そろそろ数だけではなく、質の部分や、クラブの合併がいいことがどうかはわかりませんが、ある程度マンパワーのあるところでない、今後は難しいのかなと思います。

また、奈良県の場合は今、山手の方であれば、吉野スポーツクラブさんが非常によく頑張っておられると日頃から思っているのですが、施設やバスの運行などについては、行政のバックアップがあります。やはり過疎地域ではお金だけではなく、いろんな面で、相当量の行政サイドのバックアップがなければ、民間の単なる総合型地域スポーツクラブが自立してやっていくのは難しいのではと思います。

その二点を思いますと、この目標の数値というのは、よほど何か改革がない限りは、達成するのはなかなか厳しいのかなと感じます。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

〔松下委員〕

よろしいでしょうか。

この総合型地域スポーツクラブに中学の部活が移行されるという決定は、2025年をもって実現させるとスポーツ庁が発表していると理解しているのですが、どこの自治体や地域も、本当にそれをどのように受けとめているのか、能動的ではなく受動的な状況にあるのではと思っています。誰がイニシアティブをとって、これをリードしていくのかというのが見えていない状況で、なおかつ、総合型地域スポーツクラブの方で受け持つにしても費用が必要だと思いますが、それがどこから出てくるのか。受益者負担なのか行政側が負担するのかというのが、はっきりと見えてきていないという状況です。

それから、先ほどから言われている指導者に関しても、スポーツ協会から聞くと、一つには今の既存の受け持ちの先生が、副業として認められる規定の中で指導する場合。それと、親御さんが指導を受け持つ場合。そして一番大きな割合、80%ぐらいそうなるのではないかとされている総合型地域スポーツクラブに生徒を預ける場合。その三つの誰が指導するのかということについても、我々が横から見ても、ちゃんとしたディレクションがどこからも出てきていないというのが現状ではないかと思います。市なのか県なのかという自治体の単位の問題もあると思いますが、いずれにせよやっていかないと、時間ばかり過ぎていって、いきなり部活を地域移行しなさいとなった時に、混乱するのは生徒さんでしょうし、学校側も非常に混乱すると思うので、そのあたりの順番や計画といったところを明確にしてほしいなというところです。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

総合型地域スポーツクラブに移行していくにあたっては、当然、人やお金の問題も関係してくるということですね。

では文化・教育・くらし委員長の田尻委員、何かございましたらお願いします。

〔田尻委員〕

田尻です。よろしくお願いいいたします。

奈良県では、国体に向けての施設の建て替えや、老朽化対策、安全性確保のための施設の建て替え、または新しいスポーツ施設に適用できるような施設、そういったものがかなり不足しているように思われます。

そして、やはり指導者の方が少ないようにも見受けられます。最近驚いたことがございまして、今まで衣料を売っていたある商業スペースが撤退しまして、長い間空いておりましたが、そこに子ども向けの跳び箱や縄跳びができるスポーツクラブができて、小学校低学年の子どもさんが30人ぐらい通っていて、親がずっと付いて見ている姿を見て、新しい時代が始まったように思っております。このように皆さん方とのマッチングをうまく行う。

また、地域のスポーツクラブであっても、小学校の体育館などは抽選で取り合いになり、

なかなか予約できないという現状があります。奈良市の体育館アリーナも、月の初めに抽選がありますが、私の関係するところも申し込みましたが、全部抽選から外れて、今路頭の旅をしています。そういった状況ですので、やはり施設を整備するという事、そして、子どもたちがいつでもそこを利用しやすいような状況を作っていかななくては、なかなかこの問題は解決できないように思っております。指導したいけれど施設がないという方もたくさんいらっしゃると思いますので、そことのマッチングも必要ではないかと肌で感じております。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

柱の1から3について、ここはこうしてほしいということがあればご意見をいただきたいと思えます。

では、スポーツ分野において幅広い視野をお持ちの松永委員、どうぞ。

〔松永委員〕

龍谷大学の松永です。よろしく申し上げます。

冒頭の事務局の説明の中で、資料4の1ページ目右下の〈基本理念実現の参考指標〉についてもご意見を申し上げますとおっしゃっていたかと思えます。柱全体に関わってきますので、この部分について一つご質問させていただきます。スポーツ庁の指標は、週1回以上のスポーツ実施率となっており、第三次スポーツ基本計画では70%、障害者については40%という目標値を上げています。奈良県の指標が週1回ではなく、あえて週2回の方を採用されている理由について、補足説明をいただきたいというのが一点です。30分というところを大事にされているのかなと思ったのですが、そこを補足していただきたいです。お願いします。

〔木村次長〕

1日30分以上のスポーツを週2回以上というのは、できるだけ体を動かすという意識を高く持ってもらいたい、それが将来の健康に繋がるだろうという考えから記載しております。では週に2回がいいのか3回がいいのか、多い方がいいのかかもしれませんが、週のうち2回、3日に1回ぐらいは体を動かしましょうという思いから書いております。数が多いほうがいいとは思いますが、また、30分より1時間の方がいいのかかもしれませんが、身近なところから少しでも体を動かすことが健康に繋がるという考えから、ここでは2回と書いております。

〔松永委員〕

ありがとうございます。週2回というと、急にハードルが上がった印象があるように思い

ました。週1回以上運動をする人の方が多いですが、県として週2回を目指していくということであれば、これで結構です。

次に、資料4の1ページ中段に、これまで議論をしてきた奈良県スポーツ振興ビジョンの記載があります。この、〈スポーツの持つ価値・効果〉というところに、楽しさ、喜び、勇気、感動と書いてありますが、審議会の中でも、いろいろな委員からスポーツは楽しいというのが大前提であると、たびたびお話をされていたと思いますが、これが柱の記載の部分では、楽しいという要素が急に減ってしまっているという印象を受けます。

また、資料4の1ページ目中段〈スポーツの持つ価値・効果〉の中に、これまで奈良県が特徴的に力を入れておられる「健幸」の記載があり、循環している図の右側には、健康長寿社会や、地域のきずなづくりによる地域防災力の強化という記載がありますが、柱の部分になると楽しいという要素がぐっと減っているという印象と、防災についてどこにも入っていないことが、少し気になっています。これだけ災害が多くなっており、奈良県でも災害がある中で、この冒頭一枚目には防災が真ん中に書かれていますが、これが2ページ目以降の柱の部分になっていくと、防災という文字は見当たらない状況です。

まず、楽しさや楽しいについては、先ほど中西委員からもお話がありましたが、楽しいということに関しては、やはり幼児期と、小学校児童期がメインになってくると思いますので、まずは遊びから始めて、体を動かすのは楽しいというところに、奈良県として力を入れるのだと思っていたのですが、資料4の3ページにある指標は子どもの体力合計点でとどまっています。幼児期のところも含め、楽しいということを指標にするのが難しいので消えてしまっているのかなという印象を受けました。ここはやはり、指標にするのが難しくても、ぜひ力を入れていただきたいところでもありますので、再考をお願いしたいと思っています。

次に、防災の話をしましたが入るなら柱3なのかなと思っています。柱3の施策の3地域交流の促進、あるいは地域経済ではありませんが、4地域経済活性化のところにスポーツコミッションの話が出ていますが、ここにうまく防災を入れられないかと思います。最近、スポーツと防災というキーワードで地域の活性化を図っておられたりスポーツ防災という取り組みも出てきています。以前会議でもお話をさせていただきましたが、避難場所となっているのはスポーツ施設が非常に多く、指定管理者も含めスポーツ関係者が避難所のお手伝いをするのも当たり前になってきています。

そのあたりも踏まえて、せっかく1ページ目のところに防災のことが書かれているので、柱3のところに防災関連を記載することについてご検討いただければと思います。

続いて柱2の人材について、先ほどの話にあった部活動のことが柱1のところに出てきます。柱3の情報発信にも人材が関わってきますし、重なってくる部分が当然出てくると思いますが、そのあたりの見せ方も課題であると思っています。また、人材のところ特に気になったのが、3サポート体制の整備のところ、スポーツボランティアと一言で言ってしまうと、スポーツに関わっていない人はもう関係ないと思ってしまうと思います。しかし実際には、奈良マラソンもそうですが、ボランティアというのはスポーツに関わっていない方にもた

くさん力を発揮していただけます。例えば給水や受け付けもそうですが、これまで生涯スポーツとしてもスポーツ関わってこなかったという方も、ボランティアとしてはいろいろな形で関わっていただけます。これをスポーツボランティアとしてしまうと、スポーツをしている人に限定されてしまうような印象を受けるので、多くの方に興味・関心を持っていただく発信の仕方もとても重要になってくると思っています。

最後に、(2)のスポーツ顕彰制度という項目がいきなりここに入るのは少し違和感がありまして、ボランティアを増やしたい、顕彰するくらい大事にしたいという思いなのかもしれませんが、ここではなくても良いのではないかという気がしています。京都市さんでは、殿堂として表彰して、さらに経験等を伝道していただくという殿堂(伝道)事業を行っています。そのようにさらに活躍していただくのであれば大賛成なのですが、柱2の詳細には栄誉賞の授与と記載してあります。柱の2には支える方の育成と、アスリートの育成がありますが、競技力向上の方は指標の方にもかなり入ってきているので、このあたりもう少し整理が必要かなと思いました。

以上です。

[佐久間会長]

ありがとうございます。

いろいろな観点からのご意見が出ました。特に防災施設、それからボランティアについてでしたが、事務局の方でご意見ございますでしょうか。

[木村次長]

貴重なご意見ありがとうございます。

今、委員の皆様方からいただいたご意見に対しまして、少しお答えさせていただきたいと思えます。

まず中西委員から、運動・遊びというよりは、幼児期は遊びが大事ではないかというご意見をいただきました。これにつきましては、中西委員がおっしゃったように、幼児期と言うのはここでは就学前の子どもを意味しておりますが、まさにおっしゃる通りで、まずいきなり運動というよりは遊びかと思えますので、資料のまとめ方を工夫させていただきたいと思えますし、幼児期の子どもたちが遊べる環境づくり、ここにも力を入れたいと思っております。

そして福西委員からご意見がありました、総合型地域スポーツクラブについて、単に数を増やすというより、質の問題になってきているのではないかということでしたが、これは私も認識しているところです。特に山間地域では、子どもの数、あるいはもう住民の数が減ってきている中で、一クラブ、一つの村に力があっても、なかなか実際活動できていないというようなところもございますので、そうであれば、複数の市町村でたとえ一つでも質を上げていく必要があるのかなと思っております。そういうところも市町村とも協力しながら考

えたいと思います。

次に田尻委員からご意見のありましたスポーツ施設の整備についてです。もう皆さんご存知のように、奈良県のスポーツ施設の現状は、数も足りておりませんし老朽化も進んでおります。国体を目指して現在整備計画を立てているところですが、今、委員からいただいたように、単に国体のためだけの施設をつくるのではなく、やはり国体後に県民の皆様が使いやすい施設、奈良県にふさわしい施設というのはどういうものかをしっかり考えていく必要があると思いますので、そういうことも考えながら、整備計画案をまとめたいと思っております。

そして松永委員からございました、運動・スポーツというのはやはり楽しいことが大前提ではないかということですが、資料4の1ページ目に基本理念を五つ書いております。その中の基本理念1の2行目に、「楽しく」「自発的に」とあり、「楽しく」を理念の一つ目に持ってきたつもりだったのですが、もう少しクローズアップして、楽しいということを前面に出してもいいのかなと、ご意見をいただいて思いました。書き方を工夫したいと思っております。

それと、防災に関してですが、先ほど申しましたように、今、県のスポーツ施設の整備を考えておりますが、新たな施設を整備するにあたっては当然、防災機能も踏まえた施設を考えたいと思っております。

そして最後に柱2の中の、3サポート体制の整備のところですが、スポーツというと「する人」が中心になると思いますが、やはり支えてくれる人があっての「する人」、「見る人」だと思っています。ここに書いてあるスポーツボランティアとは、意味的にはスポーツだけではないのですが、支えてくれる人をいかに育てるか。スポーツをやりたくてもできないけれど、支える側としてだったら協力しますよという、そういった方にもスポーツに関わっていただくということで、非常に重要だと思います。

顕彰制度については、そのようなしっかりと活躍してくれる方を表彰したいという思いで書きましたが、今の松永先生の意見も踏まえまして、まとめ方を工夫させていただきたいと思っております。

あと、松下委員から学校部活動の話がありましたが、稲葉課長の方からもしよければ説明をお願いします。

〔健康・安全教育課 稲葉課長〕

はい。部活動の地域移行につきましては、我々も課の方でいろいろ話し合いを進めてるところです。施策を進めていくにあたっては、各市町村教育長に集まっていただいて、全体的な説明会を開いていくことも検討していかなければならないだろうと。国の方から運動部活動も文化部の方も提言が出て参りましたので、そのあたりを含めて来年度予算の概要もだんだん見えてきましたので、スキームも含めていろんな通知が来るのかなと。それが出てきましたら、今後、各市町村に向けての説明会をきちっとしていく。その前に、各市町村で今どのように考えているのかというアンケートなども実施しながら、市町村の現状を踏ま

えて、一律にやるのではなくそれぞれの市町村のやり方いろいろあると思いますので、どういうやり方が一番いいのかというところを模索していきたいと考えております。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

特に柱の2のところに関係してくるのですが、選手育成、そしてセカンドキャリアの問題など、こういうことも含めて、ご経験のある朝原委員、そして千葉委員にもお聞きしたいと思います。では朝原委員お願いいたします。

〔朝原委員〕

朝原です、よろしく申し上げます。

先日、千葉委員にもお願いして、子どもたちを相手に、別にトップアスリートを目指すわけではなく、泳げない子どもでも楽しく泳げるようにするというのをやりました。トップを目指してやってきた私たち選手でも、そういった全然違う形で、スポーツの普及や健康増進というところに役に立っていると思いますので、もちろん仕事でできたら一番いいんですが、セカンドキャリアという仕事ではなくても、こういう政策であったり、子育てに役に立っていければなというのが一つあります。

本当の仕事としてのセカンドキャリアを自治体が解決するというのは、ほとんど僕は不可能だと思っています。情報をいろいろ集めてくるというのはもちろんできるかもしれないんですけど、その人たちがキャリアを形成するにあたって協力し（セカンドキャリアを生み出して）いくというのは、相当難しい話かなと思っています。

少し話が違うかもしれませんが、全体的に言うと、やはり柱1の施策1のスポーツクラブについて、先ほどから部活動の話なども出てきていますが、そこには人材の育成が不可欠だという話が福西委員からも出ていたと思いますが、奈良県の現状として、スポーツ人材育成係というものができたというお話が冒頭に少し出ていたような気がしますが、それがどんな計画を持っていてどんな人を育てていって、それが部活動に関係しているのか、スポーツクラブの発展に関係しているかわからないですけど、そういうのがもしあれば教えていただきたいです。それと国体との関係ですよね、せつかく国体という大きな目標がありますので、そこに対してどういう人材をどれぐらい作っていくかというところも考えていらっしゃるならば教えていただきたいなと思います。

それと最後に、運動・スポーツを健康というテーマでお話をされていると思いますが、では健康というのはいったいどんな状態でしょうかという、スポーツがこれまで社会でぼやっとした感じを持っているのは、そういうエビデンスがないところだと思うんです。唯一、運動・スポーツが健康を表すデータという、病院とか医療とかになってくると思います。全体的な施策を見ていると、医療や病院との連携というのが書いていないように思い

ます。けが予防などもテーマにあったと思いますが、その辺もあってもいいかなと思いますし、参考資料でも、ここにあるような何分運動したから健康ですというよりは、何分運動した人が増えたから血液検査の値がどうなったとか、運動した結果こんな健康になりましたとかを一つ言えたほうが、良い施策に繋がるのではと思いますので、何か目標になるような数字を上げると良いのではないかと思います。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

まず事務局の人材育成係から補足説明をお願いします。

〔木村次長〕

今の朝原委員からのご意見についてですが、人材育成、人を育てるというのが重要であるということは頭の中ではわかっているのですが、本音を申しますと、どういう人材が必要で、それをどのように育てていくのか、またそれをどう継続していくのかというところが、非常に難しいと感じております。

先ほど担当から説明がありましたように、スポーツ振興課の中に人材育成係を一つ作りまして、今年度から力を入れていこうと思っておりますが、今はまだ報告資料1－2で出している資料の程度までの整理が、正直現時点での精一杯の状況です。

そして報告資料1－2の1ページ目に、我々が考える、求められている人材というのはこういう人ではないかというのを書いておりますが、本当にそうなのか、そしてどうすればこの人達を育てられるのかというところが、本当に難しいなと思っております。

国体を控えて、アスリート、あるいはアスリートを指導できるコーチ的な役割の人、この二つについては、県のスポーツ協会や各競技団体の方と相談いたしまして、競技団体の方から、国体までに大体何年で選手、指導者を育てていくかという計画は立ててもらっております。

そして健康というところの指標ですが、県の方では、健康寿命という言葉を使っております。単に何歳まで生きたではなくて、健康で自分の力で歩ける、食べられる、楽しむ、そういう健康で何歳まで生きられるかという、ただこれをどう計るのかというのは難しいところがありますが、そういう言葉も使っていますので、寝たきりではなく、自立して何歳まで生きられるかというところを、一つの目標値にしたいと思っております。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

朝原委員から、運動やスポーツがどのように健康に結びついているのか、その指標の一つ

として、事務局の方から健康寿命という言葉が出ました。

この部分について、田中委員、ご意見ございますか。

〔田中委員〕

はい。高齢者が主になると思うのですが、リハビリ分野ではロコモ・フレイル対策で、どのぐらい運動が鈍るとどんな病になるのかというのもそろっていますので、ある程度そういうのも指標にする。ただ機械が要るとか、何か特殊なものが要るとするのは普及しないと思うので、簡単なロコチェックとか、そういうものでどれだけ弱くなったというスケールをつくられたらいいかなと思いました。川手委員の方がお詳しいかもしれません。

〔佐久間会長〕

では川手委員、お願いします。

〔川手委員〕

川手です。指標を立てて、何十年も見ていくというのはなかなか難しいんですけども、例えば、田原本町では最近高齢者のいきいき体操というのを作り、三郷町でも町単位でそうした取り組みをされています。

それで、やはりフレイルあるいはサルコペニアという点では、当然スポーツをすればするほどいいという外国のエビデンスはありますが、これをやるにはなかなか長い年月を必要とします。

以上です。

それと同時に障害者のことについて、よろしいでしょうか。

〔佐久間会長〕

お願いします。

〔川手委員〕

奈良県には、バレーボールのほかに、障害者の競技団体がありませんので、この辺のところから取り組んでは。例えば、養護学校は一つのきっかけになると思います。それから、ここには「環境づくり」と書いていますが、障害者が本当にスポーツに行き着いていない。高齢者もそうでしょうが、そういうところのスポーツのすすめというか、掘り起こしということスポーツの推進のところに掲げていただきたい。

冒頭に会長から、9年というのは長いようで短いというご発言がありましたが、この辺からももうすでに着手していかないと駄目だなと思っております。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

それでは千葉委員、柱の2について、ご自身の経験を踏まえて、ご意見をお願いします。

〔千葉委員〕

はい。本格的にスポーツを目指すことにすごく違和感がありまして、ただ楽しくスポーツをやりたいと思う人が、それを叶えられる環境がどこにもない。

例えば、偏った例になりますが、スイミングスクールであれば、選手クラスを目指して検定があって、毎月試験があって、それに合格しないと続けられない、伸びなかったら楽しくないと皆さん話していて。ただ楽しく続けていてはダメなのかということが、水泳だけでなく何の習い事にしても検定があり、上手か上手でないか、全てがテストテストで、やっぱり続かない。スポーツをやろうと思ってもやらないという原因が、多分そういったところにあると思うので、県がどうそれを促すか。スポーツクラブや学校に言うことは難しいかもしれませんが、何となくスポーツをやりたいな、始めてみたいな、毎日友達がいるから体を動かすのも楽しいなと思って続けられる環境が全然ない。本格的に気合いを入れてやるか、やらないかの、真っ二つに分かれてしまっている。ちょっと体を動かしたくても、半端な気持ちでは始められないというのが根づいているのも原因ではないかと思います。

また、施設は現状取り合いになっていて、もちろん少ないと思いますし、あったに越したことはないんですが、お金をかけて税金を使って新しい施設をつくる前に、今までにない発想で、どこに負担がかかるかなど考えたら何もできないんですけど、だからと言って今までと同じような考え方では何も変わらないので、もしかしたらどこかに負担がかかってしまうかもしれないけれど、例えば地域公民館の利用は募集をかけて順番制でみんなが使えるようにするとか、ある程度の人しか使えなかった既存の施設を、もう少しオープンにしてみたら良いのではと思います。

お金をかけて新しいものをつくるのではなくて、これが良いとは思わないんですが例えば、中学校の体育館を使っていない時に貸し出したり。いろんな負担がかかることや問題が出てくることを考えると、それはやめときましようって話になりがちですが、そこをうまく、今あるものを利用する。ずっと決まった人たちしか使えなかったところを、フレキシブルにいろんな人が利用できないのかなというのを、最近すごく思っています。

人材育成に関しては、いつも言っているのですが、ただその競技をやっていたから詳しいだろうというだけではなくて、どの分野にも必要なのは結局は心理学になります。上から目線とか根性論でやるのではなくって、人がどうやったら楽しいと思えるか、人の気持ちが変わって、人を育てるのがうまい人って絶対いるんですけど、日本ではそういう人にあまり声がかからないんですよ。やはり経歴とか、実績とか肩書きとかで声がかかる世の中なんです。そうでなく、人として素晴らしい人を発掘して、その人をお願いして、その人たちと一緒に育てるっていうふうに、他がやってないところに目を付けてやる。それが年齢関係なく

一番必要なところなんです。

なので、そういう人が人を育てれば、幼児、子どもの頃や中学校でやっていた部活などから分野は変わったとしても、ずっと楽しく続けられて、楽しいイコール結果が出て長続きして、イコール成績がおさめられるというふうになるんじゃないかなと思います。新しいものとか施設とか人というところを今まで散々やってきて結果が出ていないので、やはりもっと基本に戻って、一番大事なものを徹底的にやった方が、私は話が早いかなと思います。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

千葉委員のおっしゃっていることは根本的な問題でもあります。本当の意味でスポーツを楽しむ、あるいは永続的に続けていくためには、不可欠な要素だと思っています。既存の施設の利用や、スポーツへの取り組み方の多様性、そういったものが認められる事も必要なのではないかということでした。

余談になりますが、心理学の重要性について、資料4の1枚目の振興ビジョンのところの、「スポーツの持つ価値」という部分に、新鮮さを感じました。価値という言葉はスポーツの楽しさを踏まえていると感じます。個人の健幸、よりよく生きる、そしてそれが社会にどう反映されて、相互にどのように作用していくのか。個人的に気に入りました。

ではスポーツ心理学という点で、星野委員、お願いいたします。

〔星野委員〕

奈良女子大学の星野です。よろしくお願ひします。

今回の資料は、これまでにこの審議会に出た委員からのいろいろな意見について綺麗に整理されており、重みのある、充実した資料だと思って拝見しておりました。

国体というのが一つ節目になり、それに向かって、県民のスポーツへの意識、健康づくりや遊び、身体を動かすといったことへの意識が、少なからず向上していきます。そしてそれを人々に働きかけなければ、ただ国体出場選手だけの大会、スポーツアスリートだけの大会という位置付けになってしまう。そうならないためにも、施策がうまく作用すると、良いきっかけになると思います。

残念ながらコロナで盛り上がりには欠けましたが、東京オリンピックが国民の一つの目標になったのと同じように、健康づくりのきっかけとして奈良国体をうまく目標に合わせられたらいいかなと思います。では具体的にどうしたらいいのかについては、記載事項が多くて大変な作業になっていると、資料を見ていて感じました。

基本理念には、高齢者に特化した、健康長寿や持続可能な地域社会ということが書いてありますが、高齢者を見据えた長生きできる社会の持続可能性というところのみ見せるのか、あるいは基本理念があって、目標を対象別に挙げた方がいいのか。県民の取りこぼしのない、

持続可能な社会を展開していけるように、野心的な目標を掲げられたと思いました。

そういう目標を掲げて県民が活動できる環境づくりをすれば、手軽にそこに行って運動をし、防災も含めた地域の人づくり、きずなづくりのきっかけになる、いいチャンスだと思っています。

では取り組みをどうするかについてですが、これはもう覚悟を決めて、ターゲットを絞って挑戦的に取り組みを具体化していきましょう。

次長も最初に指標をどうすべきかとおっしゃっていましたが、この二つだけでは計れないので、もう少し細やかな指標を作っても良いのではと思いました。医学的な数値もそうですし、人それぞれの価値が変わる、楽しみが変わる、ウェルビーイングが変わる、QOLが変わることもモニターできると思います。

そして先ほど佐久間会長がおっしゃったような、スポーツの持つ価値について。千葉すず選手というトップアスリートの方がおっしゃったのですごく重みがありましたが、子どもによかれと思ってしていることが逆効果になっているのではないかと。もう少し、自分の「身体」やスポーツに静かに向き合う時間を設けてあげる方が、運動習慣が長続きするのではないかなと思います。大人が求めるものと、長い人生を背負っている子どもの求めるものは、少し違うんだろうなと思います。

対象をよく見つめた、対象それぞれに応じた、奈良県ならではの先駆的な目標を立てて、具体的な取り組みを細やかにしていけたら、より実現可能なものになっていくのではと思いました。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

ではスポーツ科学の立場から、蝶間林委員、お話をお願いいたします。

〔蝶間林委員〕

皆さんの素晴らしいご意見を伺いましたが、学校の部活動や総合型スポーツ施設との連携強化というのは、先ほど千葉委員の言われたような心理学とか、コミュニケーション能力とか、いろいろな問題を含めて、県の方で指導力をうまく向上させるような施策が必要だろうと思います。スポーツの元々の語源は気晴らしや遊びらしいんですが、やはりいろんな人が体を動かすことの喜びを感じるということがとても大事です。

また、少し気になったのが、柱1の目標のところ「心身の健康維持・向上を図ります」と、心と体の順で書いてあるのですが、体を先にして身心という順番にした方が良いかなと思っており、後ほど程皆様のご意見をお聞きしたいということが一つ。

また、僕も健康心理学をずっとやっていたので、心理学の重要性をすごく感じるんですけども、スポーツ振興のビジョンの1ページ目のスポーツの持つ価値について、心理学ではメタ認知という言葉があって、自分を外から見るという意味ですが、これはスポーツだけ

でなくて普段の生活でもすごく重要なことなんです。ですからスポーツと普段の生活との接点といいますか連携といいますか、そういうものをきちんと教えられる指導者を育成することが重要だろうと思います。

トップ選手になった方は、その競技において素晴らしいものを持っていたというだけでなく、人材育成に関する心理学や社会学といったものをわかっていたからなれたのだと思いますが、子どもたちに教える場合には、その辺のことを言葉や文章できっちり表現できなければいけないと思います。

数年前にイギリスの雑誌に、中高年が最も長生きするスポーツは何かということで、陸上やスイミング、ジム、テニス、サッカー、バドミントンなど八種目があって、何もしない人と比べてどのスポーツが一番長生きするかというのが掲載されていました。

それでジョギングかな、水泳かなと思ったんですけども、なんとテニスが一番で、何もしない人に比べて9.7年も長生きすると。ナンバーワンだったんです。その理由は、やはり心肺機能の強化ということと、ダブルスなどはパートナーがいますよね、そのパートナーとコミュニケーションがあるということ。そしてどうしたら試合に勝てるかという前向きの思考、そういうものが関係しているのではないかということでした。一人でスティックにやるスポーツが意外と長生きしないというのが出て、少しびっくりしました。一般的に、散歩とかジョギング、スイミング、自転車などというのは長生きすると思っていたんですが、やはりそこで感じたのは、コミュニケーションが大事だろうということ。なので例えば、奈良県では自転車が乗れるような環境づくりをされてると聞きましたが、その中で、コミュニケーションができるような休憩場を作って、いろんな話ができるような空間を作られたらどうかなと。やはり知らない人と喋るのは危険だと、コロナですからますますそういう感じがありますが、コロナに負けないスポーツの楽しさや良さというものを、奈良県が打ち出してくれたらいいなと感じました。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

私が気づいたのは、やはり柱を支えていく上でも、特に柱3に関わりますが、当初から懸案となっている情報の重要性ということでは、医科学センター的なものを。様々な大学や機関と連携して、当初はバーチャルでもいいですが、医科学的なもので基本的なものを支えていくシステム。これをレガシーとしてずっと残していけたら素晴らしいと思います。

その辺のところを田中委員からお願いします。

〔田中委員〕

前回の国体は40年ぐらい前だと思いますが、その時に研修医が結構入ってこられて、その人たちのレガシーで今まで奈良県のスポーツシーンは持ってきたところがあると思いま

す。特にスポーツドクターの場合は、当時スポーツドクターをとられた人がそのままずっとやっているの、プラス40歳になっています。その辺も刷新しないといけない段階になっていて、徐々にやっていっています。

総合型スポーツクラブも施設に付いていて、ある程度、基幹となる施設があります。スポーツ人口が下がったのは、要はコロナでジムが閉鎖されて行けなくなったからだと思うので、国体を契機に、そうなってもジムでできるようなものをつくっていただき、そこにスポーツクラブを付けたり、中学と連携したりする。

もう一つ、思いつきなんです、奈良医大はアントレプレナーシップといって、ベンチャーを立ち上げるのがブームになっていまして、この間事務の人がベンチャーを立ち上げました。どんなベンチャーかという、地域包括ケアの介護のノウハウを伝授する。県の職員だと講演料をもらえないので、会社を通すというかたち。同じように中学の先生にベンチャーを立ち上げてもらって、その中学自体を地域スポーツクラブのような形にして、継承していくシステムが成り立たないかなと思いました。

それと国体のAT、アスレチックトレーナーの帯同が必須化されて、各県で整備されていますが、奈良県は20人ぐらいしかいない。みんな大阪に働きに行っているんです。なのでそれを整備して地域と連携する体制と、スクールトレーナーがセカンドキャリアとして地域で働く環境をつくれたらいいなと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

スポーツ振興の施策の展開について、いろいろご意見をいただきましたが、もう一つ重要な点として、少し難しい問題ですが、資料4の3ページ目をご覧ください。ここに施策指標という記載があります。具体的な数値は書いていませんが、こうした指標について、もっとこういうものを付け足してほしいというものはありませんか。

〔田中委員〕

高齢者は一日何歩歩いたか、スマホで歩数をカウントして、意識して歩いているんですね。そういう具体的な数字を、体力医学会などで指標があると思うので参考にさせていただいて、指標にしたら良いのではと思います。

〔佐久間会長〕

継続性の一つの大きな動機付けとして、数値的な目標というのはやはり非常に有効ですね。

〔川手委員〕

川手です。よろしいですか。

先ほど少し言いましたが、障害者でどれだけの方がスポーツを望んでおられるのか。競技団体そのものが無いので、そこを充実させる指標を入れられないか。参加競技は、車椅子、グランドソフト、バレーボール、ソフトボール、サッカー、バスケットボール、フットベアスポールとありますが、そのほとんどに競技団体がありませんので、施策の指標に団体数などを加えていただいたらどうかと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

障害者のスポーツ参加を促す上で、現状のデータが不足しているというご意見をいただきました。

またここで気になったところは、施策指標に奈良マラソン参加者数〈新規案〉、とありますが、具体的な申込者数はわかりますか。すごい数だと思いますが。受付を開始したらすぐに定員いっぱいになるので、申込者数に対する参加者数のような、母数になるようなものを入れてほしいなと思います。

次に柱2の方の施策指標で、研修会・講習会参加者数〈新規案〉とありますが、人材育成に関する研修会は、県独自でどれくらい開催されているのか。スポーツ協会の方で指導者育成などをされていると思いますが、それと併せて、県でなにかできるものがあるかどうか。参加者数というのはたしかに必要だと思います。

また、スポーツボランティア登録者数。ボランティアの定義もいろいろあると思いますが、たとえば奈良マラソンのボランティア数はどれくらいなのか。

そしてガバナンスコード、あるいはコンプライアンスの問題。やはりきちんとガバナンスコードをつくっておかなくてはならないだろうと思います。

参加者数という指標は、現状と、今後どうやってその数字を増やしていくのかということも考えないといけないと思います。

そして柱の3、令和13年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けての準備体制や、学校施設一般開放の利用者数、「ここスポ」への情報掲載数。ここスポには、奈良県情報は全然出ていません。わりと東京、広島、神戸だとか、いろいろ出ていますが。こうした特にデジタル関係、先ほど医科学研究センターについて、バーチャルでも良いかなと申し上げましたが、こうしたものがベースになってくれば、現実化してくると思うのですが。情報の集約的なものがあったとしても良いのではないかと思います。

これについて、委員の方でなにかありますか。

〔福西委員〕

指標になるかはわかりませんが、我々総合型地域スポーツクラブの活動の中で、地元の人たちの体力測定というのを十数年間ずっとやってきています。指標もこちらで勝手に考えた、小学校の体力測定みたいなものを毎年ずっとやっているんですが、40代の人に出てき

てくださいと言ってもなかなか出てこられないですし、5、60代の人にも、子どもと一緒に来たら昼ご飯が出ますよとか、そうした理由を付けながら、大体、一つのニュータウンで300人ぐらい方の体力測定をずっとしてきました。

その数字がどうこうではないんですが、高齢者向けの転倒防止の力ということで、畿央大学が足力というのを計る機械を持っていて、それを若干目玉にしながらずっとやっています。それを十何年やって、一人一人にカルテを作って、毎年来られた時に去年はこんな数値でしたよ、この指導でしたよと比較をしたら、去年と変わっていないなあとかおっしゃいます。これがいいことかどうかわかりませんが、例えば、奈良県内には相当数あると思うので大変なことかもしれませんが、総合型地域スポーツクラブで体力測定を幅広くやることで、数値としても拾えます。もともとこれをやれたきっかけは、畿央大学さんがそういうデータが欲しいということで、我々も一緒になってスタートしました。

ただ、継続は大変です。おにぎりを出したらそのお金もいるし、子どもさんと来たらどうっていう、そういう何かをしないとなかなか出てきてもらえない。ただ、3年来た人は4年目も来られますね。5年目、6年目で来られなくて聞いてみたら、ちょっと体を悪くしてとか。そういうことを何か一つやると、毎年やればそんな大変なことではないので、少しの予算で、そういう数値化みたいなことをできるのかなということをやっています。ただ、継続はなかなか大変です。

また、総合型地域スポーツクラブからのお願いも含めてになるかもしれませんが、就学前児童というのでしょうか、幼稚園までの子どもたちに、「楽しい」よりも僕は「夢中」という言葉をよく使うんですが、走ることで木に登ることで、何かに夢中にしてあげようなことを幼稚園なんかでやっていければと思います。我々の方でずっとやり続けてはいたんですが、先ほど松下委員も言われたように、お母さんも一緒にやることについて、受益者負担でやるとなると、多分、だんだん減ってくるような気がします。我々もずっと無償で市内のチームを回っていたんですが、やはりだんだん人の確保などが非常に厳しくなってくるので、幼稚園は女性の先生方が多いので、そういうところに総合型の人間が行くような予算付けがある程度ないと、難しいのかなと思います。

それと、私、ボーネルンドさんの施設はいろいろ見に行かせていただいています。民間でいろんなことをやっておられ、非常に素晴らしいです。運動を教えてくださいの方々がいらっしゃって、あそこまで行くと本当にいいんですが、やはりわざわざ行かないと駄目だということと、少なからず費用もいるので、まずは幼稚園あたりで、当たり前のように好きなようにできる状況を作るだけでも、楽しさというのを覚えてくれるのかなと思います。

多分、幼稚園の時ぐらいに体を動かすことが大好きだと覚えたら、小学校でもスポーツをやる場所はいっぱいあるのでやります。30代ぐらいで多分スポーツをやるのが一旦止まって、45歳ぐらいまでは仕事が非常に忙しくて、うちのクラブはサッカー中心なんですが、奈良県のリーグでも、30代のリーグだけがありません。やはり人が集まらない、時間が無い。そして40後半から50歳頃になるともう一度やる人が増えるので、そこで僕は体力測

定が、30代40代の人にわかってもらえるような場になるのかなと思っています。

少し話が戻りますが、楽しくやるという部分については、我々総合型地域スポーツクラブだけですべてを賄っていくというのは、なかなか厳しいのが現状かなと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

それぞれのライフステージにおける楽しみ方など、いろいろあると思います。

〔蝶間林委員〕

今福西さんが言われたのは、データなどの見える化ですよ。それがすごく大事だと思うんです。子どもでも、中高年の人でも、自分の状況が見えるようになるというのは、すごく大事なことだと思います。

幼稚園とかいろいろありますが、僕は小学校の体育館というのはかなり上手く使えるのではないかなと思っています。横浜市で実際に動いているんですが、学童保育を請け負っているところから、ボランティアでテニスを教えてくれと頼まれて、大学のOBでそんなにテニスうまくないけれど子どもに教えたいという、ボランティア精神が旺盛な人と一緒に出前教室をしています。道具もみんな持って行って、学童保育の中の小学校1年生から6年生まで30人限定で教えていますが、みんなすごく一生懸命やっています。その子たちが5年後10年後になると、だんだんスポーツ好きになってくるのではないかなと思いますので、小学校の体育館というのはクラブ活動であまり使っていませんから、うまくそこで指導者育成と子どものスポーツ教育というものをかみ合わせたらどうかなと思いました。どうぞご検討いただければ。

〔佐久間会長〕

ありがとうございます。

学校施設の有効活用は非常に大きな問題で、特に小学校はコミュニティの中心にありますので、非常に利用しやすいと思います。またこれも後で質問したいと思います。

後日で結構ですので、この指標についてこう考えるということ、事務局に送っていただければと思います。

では、時間も迫ってまいりましたので、本日、スポーツ推進教育に関する各関係課長においでいただいておりますので、関係課長にご質問がある方はお願いいたします。

障害福祉課長、健康・安全教育課長（元保健体育課長）、長寿・福祉人材確保対策課長、公園緑地課長、南部東部振興課長、奈良っ子はぐくみ課長に出席いただいています。

私は健康・安全教育課長に申し上げたいのですが、小学校等の学校施設の開放を進めていただきたいです。本当は県立大学の関係者に申し上げたかったのですが、人材育成の方では、県のような長期の計画を担って大学は変わっていくのが、県立大学の一つの大きな使命で

もあります。私はスポーツマネジメント関係の専攻科をぜひつくってほしいと、強くこだわっています。これも指導者に関係しているのですが、もう一点は選手の育成です。奈良県にもスポーツが強い高校があります。そういった人たちを県立大学の推薦入試に入れてもおかしくないと思います。お叱りを受けると思うのですが、奈良県にとって県立大学は何か影が薄いというか。スポーツは一つの例ですが、もう少し県のこういった施策に柔軟性を持った大学になってほしいと思います。これらの全体の実態もよく分からないので、大変失礼ですが、そう願っているところです。

委員の方々に、ぜひ、こういったことをお願いしたいということはいかがでしょうか。

[松下委員]

一点だけよろしいですか。

佐久間会長に今おっしゃっていただきましたが、スポーツマネジメントの人材は重要な課題で、特に総合型スポーツクラブに必須の人材だと考えます。そういうものの開発者の育成が、子どものころから目標みたいなものを見つけるといことがとても大事だと考えています。

それと同時に、この項目の中にあるようでないのですが、アスリートのセカンドキャリアの育成はあるのですが、アスリートの働ける環境、働く場所をいかに確保できるかという、アスリート個人が定住できるようなシステムの構築を検討いただきたいと考えています。

以上です。

[佐久間会長]

ありがとうございました。

[中西委員]

よろしいでしょうか。

先ほど少し言葉足らずで、皆さんに伝わりにくかったかと思うので、もう一度計画の指標のところ整理をしておきたいと思います。

全体的に1歳から6歳の未就学児への視点が欠けていると感じています。生涯にわたってスポーツを楽しめる人を育てるためには、幼児期に遊びながらたくさん体を動かす。体を動かすことが本当に楽しいということを、子どもたちに教え込むことが重要で、小学校5年生になってからでは遅すぎると思います。そこを皆さんに理解をしていただきたいと思っています。

先ほど申し上げました、文科省が2012年に策定した「幼児期運動指針」がありますが、これがほとんどの行政に配られていないと伺いました。毎日合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切という考えのもとに、幼児期の子どもの実態を奈良県でも調査されるなら、

すでに研究されたものがありますので、ぜひ使っていただきたいと感じているところです。

それから、アスリートの次のお仕事という観点では、私はアスリートではありませんが、例えばサッカーをされた方ですとか、野球選手ですとか、いろいろな方々との取り組みをすでにやっております。もし仮にアスリートの方々と一緒に何かできるということであれば、ぜひご紹介いただきたいと思っております。以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございます。障害福祉課長もおいでですので、川手委員、何かお尋ねしたいことがございましたらお願いいたします。

〔川手委員〕

指導者の育成もありましたが、障害の方は自分自身でその場に行くことがなかなかできないことも多いので、専門的な介助の方の育成が必要です。また、いろいろな道具が必要で、車椅子などの資金も障害をお持ちの方には必要ですので、クラウドファンディングを行うとか。競技場をつくるにしても、先ほど功績やレガシーのことがありましたが、そういう施設はたくさんあると思います。手形を残すとか、レンガを残すとか、そういう手法の検討をまたよろしくお願いします。

ありがとうございます。

〔佐久間会長〕

ありがとうございます。

長寿・福祉人材確保対策課長に何か、委員の方でお尋ねしたい方はいらっしゃいますか。

〔蝶間林委員〕

今、奈良県で100歳以上の人は何人ぐらいいるのですか。全国で8万人を超えていますよね。

〔長寿・福祉人材確保対策課 田中課長〕

去年の数字ですが、100歳以上の高齢者の方が1340人ぐらいいらっしゃいます。

〔蝶間林委員〕

ありがとうございます。

〔佐久間会長〕

公園緑地課長もいらっしゃいます。運動公園とはまた少し違うと思いますが、何か委員の方でお尋ねしたいことございますでしょうか。

奈良県の場合、特に運動施設は数が多くても偏りが非常に大きいですから、南部東部振興課長もおいでですので、こういった施設をもっと南部東部につくった方が良いといったことや、あるいはそれぞれの特性を活かした形でこういったスポーツ振興をやったらどうかというご意見はございますでしょうか。

〔蝶間林委員〕

公園の中に運動施設はあるのですか。例えば鉄棒とか、簡単に腹筋ができるようなもの。

〔公園緑地課 竹林課長〕

公園緑地課長の竹林でございます。

今、県で管理している公園は10ございます。その中には本格的な運動公園もありますが、今ご発言いただいたような、散歩の途中にぶら下がるような遊具や、お子さんが興味を持って遊んでいただけるような大型遊具がある公園もいくつかございます。最近、散歩がてらにちょっと腹筋ができたり、ぶら下がったりできるような遊具は非常に人気がありまして、整備を順次進めております。

あとは遅まきながら、今、子どもに特化した公園を計画しております。たとえば乳幼児であれば、対象年齢として6カ月ぐらいからを想定しているのですが、そういったお子さんが専用で遊べるようなゾーンを決めまして、遊んでもらう計画です。今までですと、遊具を設置して自由に遊んでいただく形だったのですが、もっと子どもの遊びや動きを促すようなことができないかと考え、民間の力やノウハウをお借りしながら進める計画を持っております。

以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

南部の方では、自然を利用したいろいろなトレーニングができます。ある意味、種目によってはメッカになるのではないかと考えています。大西南部東部振興課長、お願いいたします。

〔南部東部振興課 大西課長〕

南部東部振興課の大西と申します。

今日はありがとうございます。私どもの方には、今日はそこまで議論が及ばなかったように思っているのですが、柱の3のところでしょうか。県南部東部における地域交流の促進、地域経済の活性化、このような分野について、担当させていただいている課でございます。

例えば、柱3の3地域交流の促進(1)のプロスポーツチームとの交流については、奈良クラブというプロサッカーチームに、県南部、和歌山県との県境にある下北山村という村の

スポーツ公園で合宿していただきまして、合宿だけではなく、地元の子どもたちにスポーツを教えていただいたり、トレーニングしていただいたりという取り組みがございます。

それから4地域経済活性化の(1)自然、地勢、景観等、奈良の特性を活かしたスポーツの推進ということで、Kobo Trailと申しまして、奈良の吉野や天川の方から出発して、和歌山県の高野山をゴールにして、弘法大師さんが歩かれた道でトレイルランをするという取り組みをしております。

ただ、本県におきましても、我々としましても、スポーツを通じた地域振興というものを何かできないかなと考えているところでございます。住民の方の健康増進という一面もありますが、なるべく南部・東部の方にお越しただいて、地域交流や地域の活性化に繋がれないかなと考えています。

ただ、参考資料の1に、スポーツ施設の配置状況の資料がありますが、やはり県域におきましましては、北部の非常に人口の多いところに施設が集中しているという状況でして、南部・東部の方でどのようなスポーツを通じた取り組み、地域振興に結びつけられるような取り組みができるのか考えているのですが、この辺りは、全国的にも中山間地域ということで、人口も少なく、施設も少ないであろう、あまり予算もかけられないであろうという町村が多数ございます。

このあたりについて、スポーツを通じた地域振興はどのようなことができるのかというヒントなりを、皆様からご意見を賜ればと存じます。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

〔田中委員〕

よろしいですか。

自転車など県大会をされているので、それを伸ばしていったらいいと思います。結構、奈良県は自転車は強いですね。強化してもらえたら、メッカになる可能性は多分にあると思います。

〔田尻委員〕

少しよろしいでしょうか。

私から、政治というか、議会の立場で少し提案と言いますか、今、首長から相談を受けていることの中で、小学校のプールの改修についてというのがあります。わずか1カ月か2カ月弱の使用で、費用もかかります。そこで考えているのですが、スポーツクラブ、要するにスイミングスクールと小学校が契約をして、そこを使うと。もちろん市が音頭を取るのですが、そうしたら、年中行けます。市としても、維持費と水道代で膨大な費用がかかることを、安全性も含めて、とてもいいことだと思っております。安全性の確保ももちろんそうで

すが、そういう施設を十分に利用しながら、子どもたちにスポーツを楽しんでもらうことが大事だと思っております。

その中で、ビッグデータではありませんが、奈良市内にあるスポーツクラブの法人のメンバーに大阪の市役所が入っています。結構、奈良市から大阪市役所に勤めている人が多いので、大阪ではスポーツクラブに行かずに西大寺に帰ってきてから行くのだと。ですから、やはり奈良だけに特化しないで、ここは絶対に考えるべきだと僕は思っております。

それから、先ほど田中先生がおっしゃったように、自転車はある意味ですごく奈良に適していると思っています。山間地が多く、平野部は28%しかない。それを逆転させて、今、奈良で朝の3時に自転車を出して、ピワイチ（琵琶湖一周）で琵琶湖を走る人がたくさんいます。素人の間は琵琶湖まで車で行って、自転車で回る。プロになるとそれでは足らなくなつて、朝3時には行きます。私も何人も知っています。そして次は、琵琶湖を一周したら、だんだんはまってしまって、次は淡路島に行って、アワイチ。その次は佐渡島に行って、サドイチ。それならナライチがあってもいいのではないかと考えています。

信貴山ののどか村の会合に行ったときに、大阪などの皆さんが車に自転車を載せてきて、今度は自転車で大変な山のところを必死で走って、また帰ってきて、また行かれる。こんなにしんどいのに、お金を出して来るかなと思うのですが、奈良だったらびったりだなと思うので、そういう整備をしっかりとしていく。今、天理駅と新しい芸術家村は、そこを狙っているわけでもあって、サイクリングの人にシャワーを提供できる施設もつくっているわけですから、ここをもっとPRしたらいいなと思っています。

最後にもう一点、商業スペースと言っても分かりにくいので、大型イオンモール、あるいはイオンが、残念ながら奈良県内でもどんどん撤退していつている事実がございます。富雄、そして河合町でも撤退をしていつている。イオンの経営者に聞くと、「もう奈良でつくることはありませんので、赤字店舗から順次撤退させてもらいます」ということで、つぶしていつているわけです。本来、あの業界はスクラップ・アンド・ビルドで、つぶしたら建てて生き延びてきましたが、コロナで先を見通せず、撤退するしかないので縮小していつているという話がありました。

そのときに、撤退した大きな商業スペースで、小学生の子どもたちが、体操クラブを目指しているのか、新体操を目指しているのか、活動をしていついます。他の子どもが来たら「私もやりたい」と言って、みんな見ていついました。あっ、これかなと思いつました。例えば行政もそういうところに目をつけて、体育館でなくても運動ができる可能性が十分にあると思いつています。

東京に行かれたら一度、ニューオータニに行つていただければ、イベントがない、結婚式がないということで、今、会社にどんどん部屋を貸していついます。会社はどこにあるのですかと聞いたら、「ニューオータニにあります」と言うので、あつと思いつました。そういう発想の転換も含めて、民間が行政と一緒にやる、そして撤退させないことが、買い物難民をつくらなくすることになると考えていついます。

まさかと思うような組み合わせができれば、それが奈良が生き延びるすべだと思っています。大阪の市役所に行ったときに、どんどん奈良の施設の正会員になってくださいと営業に行こうと思うぐらい、一緒にやった方がいいと思います。これは私の実感、実体験としての意見です。その辺も含めて、これからの課題として取り組んでいただければと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

今後いろいろ検討する上で、大変貴重な、参考になるご意見だと思います。

だいぶ予定時間を過ぎましたが、いろいろ貴重なご意見を本当にありがとうございました。これを踏まえまして、次回の審議会までに次期計画の原案の作成を進めていきたいと思っています。

ご協力ありがとうございました。これをもちまして終了させていただきたいと思っています。それでは事務局にお返しいたします。

〔木村次長〕

少しだけ補足で説明させていただきます。先ほど千葉委員の方から、日本では「本格的なスポーツ＝スポーツ」ということで根付いているのではないかというご意見がございました。報告資料1－3をもう一度ご覧いただきたいと思いますが、1ページ下段に「本県の目指すスポーツ ◆スポーツとは」というところで、勝ち負けや記録等を競う、いわゆる「競技スポーツ」を表すのみではなく、健康の保持増進、体力の向上、心身の健全な発達を図るために行われる身体運動のほか、レクリエーションとして行われる身体運動や、ジョギング、ウォーキングといった気晴らしや楽しみを目的とした身体活動等、幅広い概念を含むと記載しております。

書いているとおり、奈良県では、スポーツというのは競技スポーツだけではなくて、気晴らし、楽しみ、そういったもののために体を動かすということもスポーツだと位置付けたいと思っております。

こういう位置付けであれば、同じく千葉委員から意見がありましたように、公民館や学校の体育館などの気楽に使える施設、いわゆる立派な施設でなくても、体を動かすことはできるのではないかと考えております。

星野委員からは、細やかな指標が必要だということでご意見をいただきました。こちらにつきましては、報告資料1－2の方で、ライフステージごとに目標が違うという旨を記載しています。例えば学生でも、競技スポーツとしてトップアスリートを目指しておられる方や、あるいは大会には出ないけれど、そこまでトップを目指しているわけではないという方、競技性には興味はないが趣味でやりたい方など、いろんな方がおられると思います。

そのように、それぞれが自分の目標を持ち、取り組んでもらうということについては、それでいいと思っています。ですので、ライフステージごとに、同じ年代だから全員同じ指標

で測りますというのではなく、どういう目的を持っているのかで、その指標も変わると思っています。そういうことも、指標を整備する上で考えていきたいと思えます。

佐久間会長からご意見のありました奈良マラソンの関係ですが、毎年4000人以上のボランティアの方に参加いただいております。そのうち1000人ちょっとが学生です。奈良マラソンの参加人数の母数を知りたいということでしたが、奈良マラソンは受け付けてから抽選するのではなく先着順であり、定数になった段階で締め切っておりますので、母数は測りかねるところがございます。

ただ、マラソンの参加人数、そしてボランティアもそうですが、毎年平均年齢は上がっていています。それはどういうことかという、参加して下さっている方々は基本的に同じ人なのだろうと思っております。ですので、やはり新たに興味を持ってくれる方の開拓も必要であると思っております。

田中委員からは、指標について、歩数であれば皆さんも意識していますよというご意見をいただきました。冒頭で指標についてもご意見をいただきたいと申し上げましたように、分かりやすく簡単に取れる指標が大事であると思っておりますので、その辺について、またご意見がありましたらよろしくお願ひいたします。

私の方からは以上でございます。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

再度になりますが、私からもご協力いただいたことを感謝申し上げます。

それでは、事務局お願いします。

〔西川課長補佐〕

ありがとうございます。

それでは、最後に舟木部長よりご挨拶させていただきます。

〔舟木部長〕

委員の皆様、ウェブでご参加の先生方、長時間にわたり、本当に様々なご意見をいただきました。様々な角度・観点から、いろいろなご指摘・ご意見を賜れたと感じております。

例えば人材養成のお話、施設整備、それから施設有効活用、スポーツの本当に楽しさとはどういうことかということや、総合型スポーツクラブの問題点、指標の大切さ、指標に対するご意見、さらには障害者スポーツの話、それから幼児期における体を動かすということの大切さ。挙げればきりがありませんが、非常にたくさんのご意見を頂戴しました。

予定では、次は11月ごろに、もう一度、このスポーツ審議会を開催させていただきたいと考えております。事務局の方で精いっぱい考えまして、次期計画、あるいは奈良県で考えているスポーツの条例に、皆様の様々なご意見を反映させていただきたいと思えますので、

今後ともいろいろなご指摘・ご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

〔西川課長補佐〕

それでは、これもちまして令和4年度奈良県スポーツ推進審議会第1回定例会を閉会させていただきます。誠にありがとうございました。

以上の事項は、事実と相違ないことを証明する。

令和4年11月11日

議事録署名人

蝶間林 利男

印

議事録署名人

福西 達男

印

※署名・押印された原本は別途保管。